

令和3年度第1回庄原市外国語教育研修会

令和3年7月7日（水） 庄原市口和自治振興センター

<研修会の目的>

- ・小学校外国語科の授業研究を通して、本市小学生の実態及び小学校の取組を知るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に向けた指導方法の在り方について研究を深める。
- ・児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する外国語科の授業づくりのポイントについて研修を行い、小中連携の視点も踏まえた具体的な指導方法を学ぶ。

【研究授業（ビデオ）】第5学年 Unit6 When is your birthday?

授業者 庄原市立庄原小学校 教諭 奥 真理子, ALT Blesselle Joy Oro

本時の目標 バースデーカードを作るために、誕生日とほしいものについて友達とたずね合うことができる。

<指導のポイント>

- ☆外国語に自信がない児童にも意欲的に参加させ、英語の楽しさを感じさせる。
⇒「正確性」と「流暢さ」のバランスを考慮した指導をする。コミュニケーションをとることに重きを置く時間を確保し、児童の発言しようとする姿を大切にす。
- ☆外国語による見方・考え方を働かせる。
⇒コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて情報を整理しながら考えを形成し、再構築できる姿を目指す。児童の「知りたい」「伝えたい」と感じる瞬間を大切にし、既習事項を活用できるように発問や声掛けを工夫する。



【参加者の振り返りより】

- ・T1とT2がデモンストレーションをした後に児童に質問をさせるなど主体的に活動させる手立てが多くあり、参考になった。
- ・必然性のある活動や目標を仕組んでいくことの大切さを学ぶことができた。
- ・児童の具体的なゴールの姿を定め、その姿に向かって単元をデザインしていきたい。
- ・児童がやってみたい、話したいという単元のゴールを設定する。
- ・振り返りシートを活用して自分のできるところできないところを明確化し、子どもが主体的に学ぶ場が作られていた。

【協議】言語活動を充実させるための手立て、アイデアについて

<協議で出た手立てやアイデア>

- 話したい、知りたいと思う活動になるように単元構成をする。
- 聞く、話す、書くなど、表現する場を多く設定する。
- ICT機器を活用する。
(アルファベットを打ち込み、音声を聞く。スライド資料を作成するなど。)
- 既習表現を他の単元でも活用できるように仕組む。



【講話・演習】「言語活動の充実に向けた外国語指導について」

「小中連携を踏まえた外国語指導について」

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 塩田 佐恵

- 「言語活動」を設定する際のポイントを確認し、単元計画を立てる演習を行った。
 - ☑コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確に設定すること
 - ☑自分の本当の考えや気持ち等を伝えられる活動にすること
 - ☑伝える目的や必然性のある場面で、相手意識と中身のあるコミュニケーションを図ること
- 小学校での既習事項（「言語材料」「教材」「言語材料」）を把握し、中学校の授業づくりに何が、どのように活用できるか交流した。



【参加者の振り返りより】

- ・リアルなコミュニケーションの場をつくり、子供たちが「もっと学びたい」「これはどういうのだろう」と思えるように仕組みたい。
- ・日々の授業の中で、目的や場面、状況などの設定を行って活動し、内容面や言語面からの指導も行いながら言語活動を行っていきたい。
- ・中学校での課題を知ることができたので、小学校で身に付けさせるべき力をしっかりと意識して指導していきたい。